

シンバイオマス松阪発電所が試運転

非FITでグリーン電力生産

バイオマスパワーテクノロジー

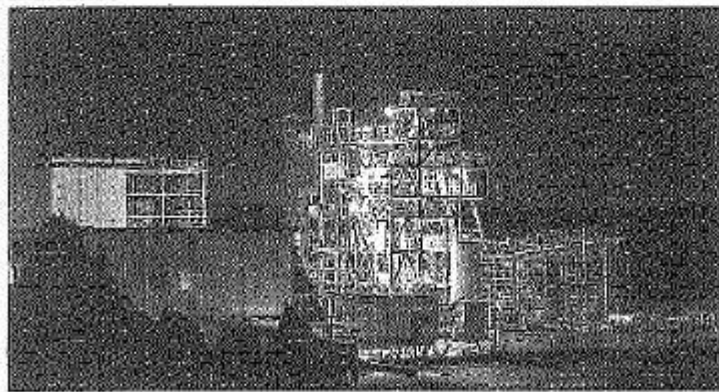
バイオマスパワーテクノロジー（BPT、三重県松阪市、北角強社長）が完全NON-FIT型木材・製造業生産副産物ハイクブリッド燃料による脱炭素電源開発事業に基づいて開発していたエネルギープラント「パワーエイド三重シン・バイオマス松阪発電所」が、16日に試運転を開始した。

松阪市木の郷町のウッドピア松阪内に建設された同発電所は、発

IT型のバイオマス発電事業を行う。総事業費は約26億円を見込んでいる。

燃料は、ホクト三重きのこセンター（三重県・多気町）から排出される使用済み培地（廃菌床）や木質チップなど年間約2万7000tを使用し、年間1647万kWhのグ

リーン電力を生産する。計画・同センターに対してオフサイトPPAによる100%脱炭素電源を長期間にわたって循環提供していく。



パワーエイド三重シン・バイオマス松阪発電所

スケジュールでは2025年1月24日に火入れ式を行い、負荷運転調整や完成検査を経て3月16日に竣工及び本格運転を開始する予定だ。

松阪市内でNON-FIT型発電

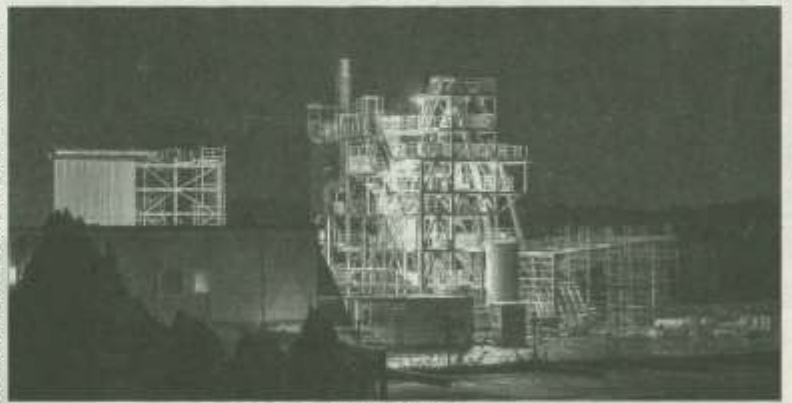
パワーエイド三重合同会社

試運転開始、多様な副産物を活用

パワーエイド三重合同会社(三重県松阪市)は昨年12月16日、三重県松阪市内で建設を進めていた「パワーエイド三重シン・バイオマス松阪発電所」の試運転を開始した。同発電所は、完全NON-FIT型木材・製造業生産副産物ハイブリッド燃料による脱炭素電源開発事業となっている。プラント設備はタクマ製。従来型の木質系燃料に加えて、廃棄処分されてきた製造業

由来の生産副産物(きム・スポンジ製品など)のこの等の廃菌床や清涼の非化石燃料をハイブリッド使用するコンセ

この構想にもとづき実施する同事業は、ホクタの三重きのこセンター(三重県多気町)から排出される使用済



プラントの外観

1647万kWh時のグリーン電力を生産。ホクタの三重きのこセンターに対して、オフサイトPPAによる100%脱炭素電源を長期間にわたって循環提供する。オフサイトPPAとは、需要地ではない別の場所に導入された再生エネルギー設備で発電された電力を、一般の電力系統を介して需要家へ供給する契約方式のことを指す。

同社は、「国が掲げる2050カーボンニュートラル実現に向け、国民負担に依存することがない、地元経済に根付いた地域福祉型小規模分散電源の創造と展開の第一歩となる」とした。今後、1月24日に火入れ式を実施し、3月16日に竣工・本運転開始を予定する。